

MOHAWK LICENSED PRODUCT © The Tiffen Company, 2000

ColorChecker

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

三七  
全傳

南  
柯  
夢

卷

七



曾

600

2/7



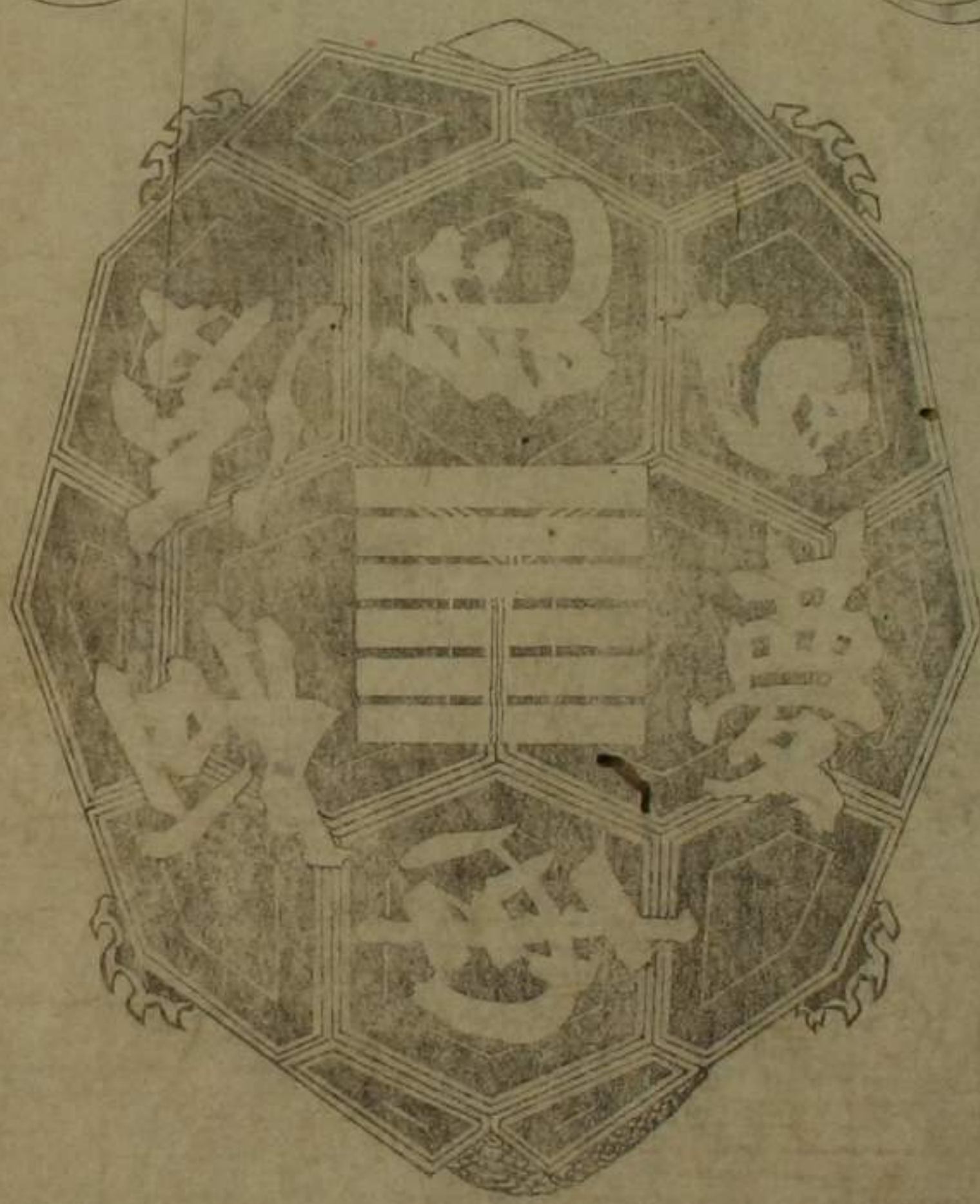
14  
600  
218

曲亭主人著

# 三七卷傳

其飾北齊畫

國字小說



壬申發兌

梓繡堂蘭水

全本八冊

禮古情

無名氏

開元七年，道士呂翁者，得神仙術，行邯鄲道中，息邸舍，隱囊而坐。俄見少年盧生，衣短褐，策青駒，亦止邸中，與翁言笑。盧生顧其衣裝，囊乃數曰：大丈夫生世，不諧困如是也。翁曰：子談諧方適，而歎其困何也？生曰：吾常志于學，自惟青紫可拾，今已過壯，猶勤畎畝，非困而何？言訖而目昏思寐。時主人方蒸黍，翁乃探囊中枕以授之。曰：子枕吾枕，當令子榮適如志。其枕青磁，而寢

同州一  
本作同  
列

其兩端生俛首就之。見其竅漸大明。乃舉身而入。遂至其家。數月娶清河崔氏女。女容甚麗。生質愈厚。明年舉進士登第。釋褐轉渭南尉。俄遷監察御史。轉起居舍人。知制誥三載。出典同州。遷陝牧。移節汴州。領河南道採訪使。徵為京兆尹。是歲神武皇帝方事戎狄。除御史中丞。河西道節度大破戎虜。歸朝冊勲。恩禮極盛。轉吏部侍郎。遷戶部尚書。兼御史大夫。為時宰所忌。以飛詔中之。貶端州刺史。三年徵為常侍。未幾同

滅恐滅  
字偽

中書門下平章事。同列復誣與邊將交結。圖不軌。下制獄。中官為保之。滅死。投驩州。數年帝知冤。復進為中書令。封燕國公。生五子。有孫十餘人。後以年逾八十病薨。盧生欠伸而寤。見其身方偃於邸舍。呂翁坐其傍。主人蒸黍未熟。生蹶然而興曰。豈其夢寐也耶。翁謂生曰。人世之適亦如是矣。生憮然良久。謝曰。夫寵辱之道。窮達之運。得喪之理。死生之情。盡知之矣。此先生所以窒吾欲也。敢不受教。稽首再拜而去。

右沈既濟  
枕中記

蕉窗月を引て景壁を射るゆへ秋蛩  
膝鳴き吾衣のうすはなれく林を  
まじり塵を拂ひて加ふ書を積ども披く  
稀むらこの時也客乃柴門を敲く酒の爐  
邊は暖るれし膝らんする小を寝らる  
隠て坐し天を仰る嘘次はまの稠を衆  
ゆるが故に枯木乃如く心死灰は似  
いども聊吾生を樂むは足まじり俄見浮雲月

顔一と孤燈の明かりを抄月え檐馬掃拂  
夜のいづ深くみぢらぬ是馬猿を静慮  
殺す聲身色の欲もいづをいづを智を忘  
と能は次鵬銀を道途は伴ふ小大乃利を争  
すゆいづをいづを捨ると能は次硯は呵し  
筆を弄し意を費し識を醸次羅貫三世  
乃瘡紫女墮獄乃悔豈身後の談らんや生涯  
風流文墨乃奴と向る因果麻生るり終書を  
綴るを以て終日不言は是瘡は似るるわ

鬼話を演輪回を説是墮獄の悔あはるる也  
父母吾を生むるに豈如此して身を修むるを  
もて可少きん也執已しを得ざるの書賈  
木蘭堂常南柯夢の続編を版せんと請ふれども  
彼篇ハ既全く局を結了絶く一物を送らば  
を續とも勞て切かし夫流竭る飲をりしむ  
とて新井を空牙より月没る明を求む  
更は燭を点するも次不如と推辭を聴  
願は彼木葉書賈ハ晝裏南柯の下に坐して偶

鬼を獲りて之を宣ひて株を守るとは後  
守ふの癡なるありて其の株を作らば  
遂に編を嗣業を脱してその欲を充て  
南柯後記といふ亦是再寢の夢物語を鄭の  
新者が鹿に擬して若郵郵の客人も夢を  
夢殿の先生もこれを取らば書賈ハ必鬼を捨  
亦いちもや鹿を獲つ極し

文化辛未立秋の日

曲亭主人識



占夢南柯後記總目錄

前帙四冊

南柯の接木

千日夢後

詐橋の送葬

冬田の晚稻

遠山の夕霞

雨後の月魄

木末の点滴

池の中嶋上

池の中嶋下

浮名の嬌夫

後帙四冊

秋西の望松

羈旅の新関

暑の夏花上

暑の夏花下

天神川の涼



宮島圖

新 婆 玖 憐 安 絢



一念精誠半楚雲青天  
白日更誰論無端草木  
收殘濕雪驚鶯歌  
録野村

おつ舎集人

過去の菴主  
槐樹の手斧  
夜川の野航  
合歡の花桶  
柴構の雨笠  
統計八巻此  
間又登秋雨  
笠松為上下  
題目二十一  
今登帙為上  
下各四巻  
全部目次果



周防山内家城下圖



とま五郎

信清軒

夕きらの  
 五月  
 森子雲  
 松の下落  
 涼々々

あつ山

坐松平仇



全奴

久早逢甘  
 雨他郷遇  
 故家洞看  
 花燭夜金  
 榜掛名時  
 宋人四喜句

刀中同樹

お花

刀中七



年紀

永正元年 統井順昭米谷山の老楠樹を伐り丹波都都死せり時年七十歳をえ

八歳之 永正二年 赤根羊六が妻輪篠病死を時小羊七が年十一かさんか年九ツ使み

誓烟の礼を擬て是年の冬かさん故ありて笠松平三示養のれを後露伎とありて名を三

勝と改む 永正三年 園花七歳をの又典膳督縁を羊六と義を 永正十二年 羊七廿二歳園花

十六歳春誓烟の礼あり夏又至て統井吉推近臣赤根羊七今市全八布袍蝶九郎等

を初て濁し洛小松小時小吉推廿二歳園花が兄曾太郎と同庚との秋笠松平三脚平

足平を殺して奈良へ走り去る羊七三勝白河小再會あり共亡命之この時三勝十九歳

永正十三年 三勝二十歳近江の又賀の莊小女見か通を産む 永正十七年 羊七廿六歳

旅店小信濃の番掛は病む時三勝廿四歳女見か通五歳 月十八年 永禄と改元前之

永禄元年 今茲十二月月上旬厚倉三郎大夫暗小金を羊七小あらり月七日の夜羊六

數浪ホあめく子小代王て浪花の千日墓小自殺し 蛭松典膳致仕入道久時小羊七廿七歳

三勝廿五歳曾太郎廿六歳園花廿二才か通六歳あり 以上前篇

永禄三年 三勝廿七歳男子又次大和産むとの時父の羊七羊之進と改名してその子

を羊七と名つ 永禄四年 園花廿五歳をゆめ男子を産むと名つ

天文元年 三勝亦男子を産む陶五郎隆春をれ 天文七年 十一月七日典膳入道病

つ病小死今茲の冬曾太郎亦その妻厚倉君氏を喪へられ二郎大夫が女見 天文

八年 蛭松曾太郎が女見初花八歳中て玉枕御前の侍童小あらりつ 初花が妹夏山

時七歳叔母園花を養ひ 天文十四年 統井順勝の息女 槐 姫十四歳上洛

入道黄門一忍軒の養女とある羊之進が長女か通との羊七三歳 槐 姫小後て洛

へ赴く 天文十六年 槐 姫十六歳今茲大内家と婚縁致す 周防山只赴く厚倉

三郎大夫父子か通隆春仙聖炊粟ホられ小後 天文十七年 赤根隆春陶晴賢

の養子とありて陶五郎と稱は是年笠松平三外孫平作を養ふ家嗣を曾太郎が

二女夏山を平化が妻とらん十月六日平三病死同月十日厚倉三郎大夫周防

の山口小病死久その子年人友善出奔とて往方とらる 天文十八年 笠松平作が妻十七

歳今茲男子と出産とらるを平太郎と名つ 天文十九年 赤根蛭松の両家志を同

百可受已未一

六六浪ホカ廿二回之法逆を問ふ小の年の冬親族ひらく浪花の法書  
 由緒の時羊之進五歳曾太郎四十九歳三勝四十八歳園花四十四歳お通廿八歳  
 の羊七廿七歳笠松平作二十歳陶五郎十九歳曾太郎が長女初花十九歳平作が妻  
 夏山十八歳平作が一子平太郎二歳との辰の後記の發端之餘の詳小篇の中をえたり  
 南柯後記列傳姓氏畧目

陶權頭暗賢	買外姓氏	阿通	仙野呂東二	厚君車人友善	赤根羊之進	統井順勝	南柯後記列傳姓氏畧目
持明院入道一忍軒		阿花	私卒丹三	賣敗鐵者全次	刀治羊七	玉枕御前	
大内義隆		夏山	三勝	刀治同樹	笠松平作	槐姫	
大内義基		晚稲	園花	炊栗郎太郎	陶五郎隆春	蟻松曾太郎	

三七全傳 第二編 古夢南柯後記卷之一 前帙第一

南柯の接木

往時亨禄元年。前編小永禄と云蓋備書の冬十二月をじめの七日羊七が父赤根羊六  
 三勝が母敷浪ホカとの子小羞あや代まで千日墓の霜と消しより後仰  
 の間二十三年を往たり。されば大和の統井家より順昭既小世を逝あひて嫡男  
 吉推九父祖の箕裘を兼嗣く伊賀又順勝順正の御と稱せ順勝小息女  
 ありて槐姫と号れぬ。正小是錦の上小花を折添金の中小玉を琢るゝの容  
 止あるのそふあらで才ありて心操風流の華洛の由縁小就て持明院前中納  
 言の入道一忍軒小養れ年才二八の春の比防張豊筑四个國の守護  
 後二位兵部卿兼太宰大貳大内義隆の嫡男三位中将茂基の北の臺小

東都 曲亭馬琴編次







南柯夢をえらる人或いはて忘たるもあらば前編を熟覧し更なる條  
ぞとてこれ耳を塞ぐ物より如く競とてども言をもて安んじたるありへど。

千日の夢後

時よ天文十九年庚戌秋九月の下浣ありつ。今茲十二月ちの七日(赤根  
半六と交浪が二十回忌をむくたふ小蛭松典膳夢幼齋が十二回忌笠本  
平二と厚倉友春が二回忌小三相当せり。この諸灵位に赤根蛭松両家のみふ  
親あり。舅あり。恩人あり。就中半之進と二勝はその音勅ふ死後と親と親  
とが倭小命を預けし子代とあらん後の辰までも大和の若き妹と夫の心  
らぬ契を結びとえて家の榮を子向せり。とありとも送ぬひ一言のそ高た  
父母の恩を命よりおの山を赤十づ積り思ふとも。これ小比まはは低し。せめ  
ては。法善寺の千日墓小追善の墓をひらけ衆僧の誦經小

弥陀佛の引接をわがりとて半之進の豫より。三務園花曾を郎ホとの  
を相談し。追善の法蓮の稱月より。年極の殊さらし。公教の  
繁く。且春の常又暇あり。加禰親族齊一彼如。赴ん小才七平作事  
殿の近習たる君邊小事る身の。うや小要時の猿中もの時を嫌ひ身の  
暇をまじあらん便あり。母り余十月のちの六日の笠松阿翁の二回  
忌あんば一切の追薦供養をこの日より。はて執行ん。そとめれ。曾太  
郎がゆふまじ。かて主君伊賀又事の趣をせえあげん。あひく。行装を  
あせり。時小十月二日をの首途の日と定め。うら園花のち子笠松平作と形  
の夏山孫の平太郎木を伴ひ。蛭松曾太郎の玉枕御前小給事する。長女初  
花をさ。ちがの暇をむまじ。それを携。朔日の薄暮より。是彼齊一  
半之進が宅小娶ひ来て。翌のち小啓行せんとて。甲夜より。主夫婦

大内と  
の狂  
屋  
物  
話  
たり

半七市川曾太郎園花が齎たる。偏提酒を酌とえて。志ぢも席をさあぬ  
小奴隷ハ駄荷を造るとき。と置。い言のひ上をむと。の折ぢら。ありひも  
うけど周防。と。と。通と陶五郎のまき。と。私平が鞍知小れハ。要皆  
いふ。小。と。うら。参。く。ま。に。飲。び。つ。ま。く。吸。び。入。ま。て。対。面。せ。四。年。の。再。会。あ。つ  
ら。あ。れ。ば。親。子。同。胞。恙。あ。れ。を。送。り。祝。し。祝。さ。れ。て。ま。を。お。す。進。三。勝。市。を。通  
と陶五郎小対。て。今。年。ハ。家。廟。の。年。回。あ。れ。法。蓮。を。法。善。寺。小。兵。へ。お。ま。つ。浪。花  
へ。赴。く。は。を。説。き。也。汝。達。ハ。又。う。あ。る。あ。り。て。猛。小。故。郷。帰。来。つ。槐。姫。の  
恙。あ。く。や。在。ま。い。り。と。ひ。り。と。あ。と。し。眉。根。を。う。ら。ま。を。向。け。よ。お。通。り。さ。す。う。ら  
笑。す。さ。あ。り。一。百。理。あ。れ。ど。吾。侪。同。胞。が。ま。じ。り。も。一。切。あ。れ。す。下。あ。れ。す。猛。小  
善。洛。と。大。和。の。あ。ん。使。を。う。け。あ。つ。て。の。ぼ。り。な。ま。を。小。け。り。その。故。ハ。年。未。合。戦  
中。時。あ。れ。の。諸。國。の。土。民。疲。ま。た。り。され。ば。應。仁。の。擾。乱。よ。り。善。洛。も。舊。の。善

洛。小。善。洛。の。い。ま。う。荒。果。て。鄙。の。住。居。小。似。う。と。あ。ん。それ。の。遠。立。ま。さ。る。周。防  
山口の熱雨ハ。街衢を九條小ひらけ。平安京ハ擬た。され。ば。西。山。東。山。仰。ハ  
い。う。高。倉。や。妙。小。路。と。茅。訓。の。里。の。由。縁。の。花。の。兄。梅。の。宮。より。嵯。峨。太。秦。千  
本。通。り。を。北。野。の。松。現。は。十。あ。り。の。花。の。御。所。ハ。比。枝。も。及。び。ね。鶴。の。嶺。金。岡  
銀。岡。建。つ。ら。ね。長。生。殿。ハ。春。秋。の。富。小。路。も。遠。あ。ら。不。老。門。ハ。日。月。逢。死。鶴。餅  
所。鳥。丸。榎。り。と。黄。金。を。堀。河。の。水。の。紋。あ。る。六。角。通。り。その。水。鳥。の。鴨。河。ハ。未。あ。つ  
切。大。和。橋。祇。園。の。社。清。水。の。音。羽。の。籠。小。比。主。様。色。香。古。因。の。ま。の。本。林。系  
よ。り。あ。つ。柳。の。馬。場。二。丈。三。條。大。橋。の。あ。る。敏。高。花。を。何。れ。の。祝。し。う。や。口。吟  
けん。大。内。と。め。め。と。ん。た。文。字。今。あ。れ。と。裏。の。字。略。や。大。内。裏。と。例。の。人。の。辯  
あ。る。と。され。ば。諸。國。の。高。賈。亦。聚。合。う。ら。も。聚。ひ。ま。て。建。つ。け。る。廓。ハ。二。里。ハ  
程。ハ。棚。を。張。る。衣。の。柳。小。真。の。柳。奇。品。唐。物。琴。棋。書。画。交。易。賣。買。あ。つ。小

百可後已





涙のららみたり。胸すくを推量る。三務の園菘とどらむ面をあらはす。  
りられの涙の曾太郎由鼻うらう言後まじり陶五郎をつつとらんく  
小膝をすめ四年ふねる小隆春の男ありあひたる。あ身切つて  
眼の丸からざる未憑くええらるる養子とてふもあさばとあひあから  
いまは遊むらと由断く陶氏小先せらまらつる曾太郎が不幸ゆへ却て身が  
幸に彼権頭晴賢ぬい大内第一の執柄ゆへ周防富田の城主たる。所  
帯をばま九牛が二毛もあは足らざり。貧福の天のあふ不化家を続といひ  
あから。季子みく。親同抱も立務すららるる。稱賢すれは陶五郎の  
扇を膝ふとてあは。この小父公の言禁とも是ゆの美を結びとて父子とあ  
りの尸旗と德行をくを擇め。いさる緑の妻を論どる。君命黙止せらして  
陶氏以頼る。是全く隆春の運の究めとてをといひ。言可惜し。申條の  
ゆとも大内妻の良の鼻祖の百済國王東明八代の後胤餘璋王等三の王  
子琳璋といひ。人唐の乱を避る。周防國依波郡鞠生の浦の妻の良續り  
未王留る。実より大日本推古天皇の十九年のゆりとを言えたる。亦新撰姓  
氏録小載るところを考ふる。す々良公の御間名の國王。亦利久年王より出た  
る。欽明天皇の天朝小投化し。金の妻と利と金の年居を献る。天  
皇特小答させあひて。妻々良公の姓をあふ。ええたる。あれば是は傳り  
兩説あり。いづれも是るをあらは。式にいひ。琳聖王子七代の後長門舟正恒  
が時朝廷をめて被先祖の未王とまらる。地の名小よりて。妻々良朝臣の姓  
をゆる。是より。元号を大内と稱し。なり。あして。平氏の後胤左京権大夫義  
弘朝臣周防國山口小居城より。長門石見豊前赤の國を討ち。明  
徳の乱。小軍功あり。故小足利殿。勸賞とる。和泉紀伊の二個國を

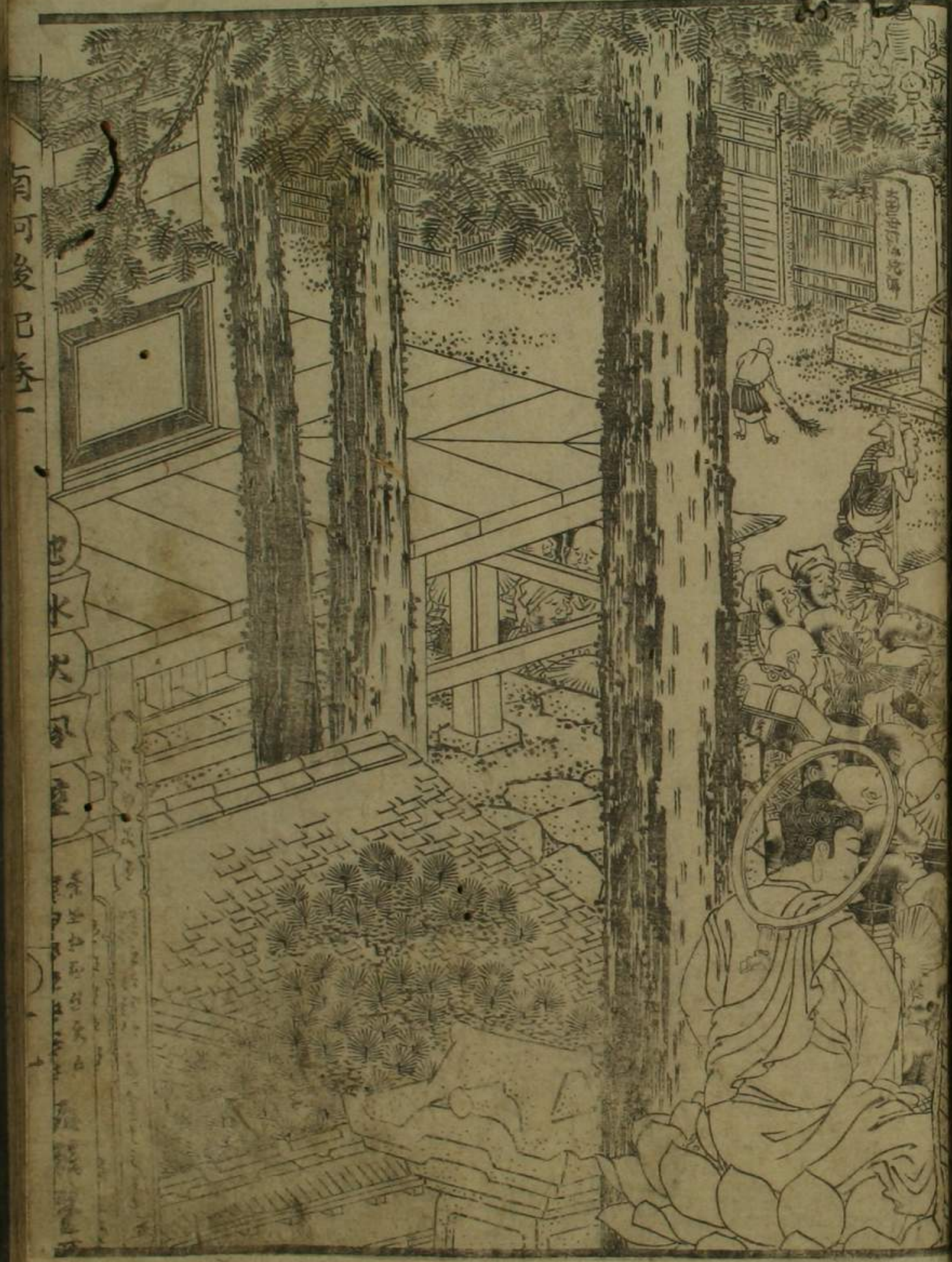
増す。長弘も賜ひし。泉別堀小居城也。あつたれど義弘只管武功は  
誇り。足利殿を蔑如し。終に鋒を争ふ不及。散る小戦に負意  
永六年正月廿二日。和泉路より討死しぬ。あつたれど足利殿の先  
功を捨ぬらね。子孫所領の地をうらむ。義興の時に至る。又武功あつた  
る。後二位小叙あり。就中當主義隆卿の武略又祖ゆかりやま。西教  
園を伐ち。利内裏造營の料物を献す。三位の侍後兼太宰大  
貳小補。ちりし。額小進。後二位の兵部卿ある。亦。養父陶推  
頭晴賢の主君大内殿と同祖なり。往古百済の琳聖王子投化し。尋良  
濱小着。秘のとれ相後ひきたる。二人の臣下あつた。陶山口の先祖あり。主  
家へ。小北八代。家も又北餘代氏といひ。縁といひ。肩をばる。ゆめ。あつたれど。  
驕る。とれ。久し。あつた。明白。あつた。あつた。隆春が歎た。あつた。あつた。傳。あつた。晴賢

養父と。陶隆房入道道喜。育小只ひ。の。実子あり。陶五郎隆豊  
といひ。あり。父の道喜。富田若山の城小隠居し。五郎隆豊。山口小あり。そ  
一日隆豊。富田小あり。父の女否を伺。序。主君義隆の賞罰。非法を  
る。よ。を。演。あ。さ。か。ひ。ひ。の。父の道喜。つ。と。ゆ。て。あ。つた。この。ゆ。め  
いま。年。二十。ゆ。も。足。さ。さ。主君を蔑小。さ。の。さ。ろ。あり。これ。死。あ。必。謀  
殺。さ。べ。た。ゆ。め。の。こ。と。と。密。小。家。謀。小。ら。ゆ。さ。情。あ。も。隆。豊。を。刺。殺。し  
たり。と。あ。ん。の。ゆ。め。を。傳。は。く。ゆ。め。の。或。の。骨。を。拍。て。撃。つ。嘆。し。縦。見。透。思。ゆ。あり  
とも。を。殺。さ。る。ゆ。め。の。あ。つた。小。況。さ。養。とも。思。とも。定。う。あ。ら。ぬ。一。又。を。主君  
の。小。叙。した。道喜。稀。ある。忠臣。と。と。只。顧。小。養。る。も。あり。或。の。骨。を。う。ら  
顔。め。父。子。の。道。天。性。あり。あ。つた。小。一。言。の。下。小。是。非。を。決。さ。忽。ち。あ。つた  
子。を。殺。さ。道喜。か。さ。多。虎。狼。と。猛。し。彼。子。の。子。を。も。愛。せ。し。て。い。り

百可定

トフヤカ





南河愛已卷一

四水

南河愛已卷一



孝子  
十日墓子  
孝子  
孝子  
孝子

南河愛已卷一

宗族母黨團坐して庭の落葉とふを積る四年未し方のおぼろふ小冬之夜  
あれど長くもかかえど。鶏鳴曉を告小ければ通陶五郎の浴して衣服を  
整伊賀及玉枕御前のをりし。竹井の館小艇候し。入道黄門一忍軒の  
迎う。上洛するよりをさじ。二位中納と槐姫の消息を達らざれば伊  
賀及夫婦彼消息をひらめく。西國の。姫君のうへを向せあひて酒飯を  
あらし。兼洛の序よ春をまがひにせられん。あまのこころの留ぬあり。  
逗留の。但せたるべし。後。返書を賜はる。法善寺詣の。さ  
まじく退出つ。その時日。西小傾れ。羊之進曾太郎の彼小を  
約はく。足弱き。橋を乗。一族主後五十餘人直に大和を起行。その日  
三四里が。宿を求め。次の日浪花へ赴け。後館を定め。衆皆法善寺  
詣。寺僧出迎。客殿へ誘引。法會の。豫の消息小。てか

いぬ施初の假屋へ金毘羅堂の右子のや。小修理。あづ長途の  
般舟を勤。と信。叮嚀小敷。當下羊之進の懐。と  
二枚あま。つた。なる。帝。法号。俗名。年月。を書記。をとり。出。押  
兵。寺僧。指示。諸。位。俗名。赤根。羊六。蛭松。典膳。が妻  
敦浪。と。寫。其。が。実。父。と。姑。み。今。茲。十二。月。の。七日。二十。三。回。忌。小。相。當  
と。又。夢。幻。居士。と。字。せ。られ。る。曾。太。郎。園。花。本。が。又。典。後。され。これ。今  
茲。の。十。月。七。日。を。十三。回。忌。の。稱。月。と。ん。又。俗。名。益。松。平。三。と。字。り。三。勝。葉。を  
花。本。が。義。父。と。る。が。の。月。六。日。の。三。回。忌。の。稱。月。と。又。俗。名。厚。君。二。郎。大。夫。友。春  
と。字。り。の。ふ。お。ま。恩。人。蛭。松。氏。の。の。ま。の。男。あ。る。が。られ。も。の。月。十。日。の。三。回  
忌。の。稱。月。と。又。俗。名。丹。波。都。と。字。り。の。二。勝。が。実。父。俗。名。輪。藤。と。字。せ  
る。其。が。實。母。の。中。羊。六。と。敦。浪。の。墓。に。當。寺。小。の。を。法。會。の。正

位とん。自餘まぐの太わわ。没し。厚倉の周防の山口にて病死せり。但  
舟波都の没し。よき。四十二年。論議の四十年よりあり。いふ。五十回忌をらの  
法會小より。共。同。向。一。の。と。緋。群。の。演。説。三。の。施。物。の。目。録。小。の。り  
添。く。う。の。曾。太。郎。の。私。卒。兩。三。人。の。布。施。物。を。と。り。運。び。て。処。せ。ら。れ。ま。す。  
安。排。ま。す。僧。小。の。り。受。と。り。方。丈。の。運。び。納。る。り。住。持。の。上。人。立。出  
る。追。薦。の。志。の。篤。死。を。唱。贊。し。長。途。の。疲。勞。を。向。慰。め。め。ら。れ。り。後  
の。歎。待。の。り。と。書。も。つ。さ。び。の。日。の。十。月。二。日。あり。と。法。會。の。翌。日  
よ。き。三。个。日。と。定。め。清。僧。二十。員。を。延。請。し。て。經。卷。の。紐。を。解。し。む。せ。り。と  
赤。根。踐。松。の。一。族。の。旅。館。小。立。つ。り。の。夜。より。精。進。寮。香。し。て。衣。殿。を  
敷。正。毎。日。小。法。善。寺。の。法。苑。小。列。坐。し。て。読。經。を。聽。せ。り。既。小。結。願。の  
白。小。の。り。小。の。り。講。師。法。坐。小。著。り。佛。法。の。不。可。思。義。を。説。施。主。檀  
越。の。功。徳。を。演。め。の。愛。僧。を。和。噴。し。て。樂。童。管。絃。を。奏。し。たり。と。の  
乃。伴。善。盡。し。て。天。衆。も。ら。小。影。向。し。函。冥。得。脱。疑。ひ。り。と。ぞ。見。え。し。也。と。法  
會。果。よ。り。れ。の。施。主。の。男。女。打。つ。れ。と。り。施。行。の。假。屋。入。り。り。支。本。奴。隸。前。後  
小。警。固。一。推。高。く。積。累。た。り。四。十。六。俵。の。白。米。の。十三。回。と。廿。二。回。の。數。小。の。り。平。實。文  
の。青。鈔。の。三。周。七。回。五。十。年。の。忌。日。の。數。を。表。し。たり。彼。此。より。聚。合。ま。し。今。の  
今。の。と。の。り。の。見。え。も。蠅。の。如。く。小。群。と。り。或。の。嬰。兒。を。肌。に。著。老。た。る。を。扶  
引。婆。々。よ。家。々。よ。と。呼。子。鳥。只。啼。と。り。餅。を。求。食。覆。車。の。前。の。村。雀。貫。啼  
す。乃。比。羽。鳥。燕。口。の。敗。袋。を。り。一。件。小。弥。陀。の。光。も。錢。龜。の。手。足。際  
る。の。福。徳。の。三。歳。鯉。の。袖。の。小。犬。も。ま。ま。如。是。畜。生。諸。鳥。跋。虫。江。河。の  
眞。覺。悉。皆。成。佛。平等。利益。と。異。口。同。音。を。唱。へ。は。功。の。見。え。と。り。勝。を  
つ。と。と。り。の。信。濃。の。皆。戀。の。旅。の。宿。小。病。卧。せ。り。夫。小。の。り。と

百本行言

十

弾く三絃の音はさうのりともきくゆ人の門辺はなほ剣さす月日のかきまを  
こまよむ之食をちくじと昔忘れぬ身の幸いあがよめたる袖の雨笠屋簷  
屋と鳴れつ。貪くもあじ浪花浮何人のうへあらんとつひどもそれとあひ  
中。赤根も共は嗟嘆せり。さる程は修行も既も果し。ふ。衆皆假屋を立出つ。  
冬枯げ草の原の死名苔むん墓より。そとどや今の夢小く。似たり夢  
うの夢の迹二十三年千日のごころあげぞ。やまをる半も進の傍る。石塔波小  
指し。三務られをえあつて。や。享祿元年十二月七日。嵐雪月照信士月  
雪妙霜信女。一蓮託生俗名和列五條新町赤根半七。美濃屋三勝と彫  
著し。これとん身とその夜ま。この処ま。死ねあじを厚倉好。諫免  
られ像見。わりの叢影曼と假髪を瘞。標石よ送。夫婦が各の墓と。か  
ま。口説く夫よ。三絃の音をきか。二務の園花と。む。ま。卵塔と。ん  
おうえつ歎息。いひのさね。その夜ま。親と親と。子を。の。葉  
ぢ。あ。ろ。紙の送書。い。ら。小。貼。あ。あ。ひ。悔。ら。ぬ。水。茎。の。迹。吊。今。日  
の。向。草。枯。ゆ。と。の。面。影。い。今。え。ら。ち。小。作。と。父。を。異。よ。ら。同。胞。が。  
親の非業の死。異あら。で。い。れ。も。過。世。あ。引。の。山。路。よ。寄。く。斧。の。柄。小。物。置。れ。て  
楠の葉と。消。或。之。浪。花。津。の。蘆。の。葉。枯。く。霜。の。夜。の。月。の。劍。よ。つ。ら。ぬ  
あれ。く。の。終。を。と。り。あ。ひ。親。を。と。り。あ。ひ。時。の。憂。あ。じ。三。の。数。ら。ら。物。足。ら。ぬ  
とも。あ。ら。ぬ。今。の。會。う。れ。昔。が。恋。し。と。く。あ。ら。ぬ。を。と。り。と。を。涙。い。と。も。減。る。  
お。通。も。臉。押。拭。ひ。定。う。ふ。お。ぼ。え。け。ら。ね。ど。さ。ら。ら。の。夜。外。霜。さ。る。小。舟。れ。て  
跡。を。慕。ひ。ま。つ。の。折。戸。う。り。う。ら。と。あ。ひ。を。む。目。標。の。柳。も。い。と。く。老。ふ。り。り。  
あ。や。あ。り。ん。と。を。あ。り。不。彼。首。是。首。を。え。ん。と。ま。を。と。り。小。と。問。う。て。久。の  
の。鶯。隠。口。の。花。と。り。も。に。つ。と。立。夏。山。も。憂。ゆ。り。ぬ。紫。末。の。白。

百可後三巻一



羊七平作。隆五郎也。身のほどくらけてゆく。生れぬ前の哀別離苦を今さら  
らふ如い申。さき夢の社方々。さあぐも遠く我の名の標石とらるる。さ  
まも世ふあつちの命長くと祈る。のをい。さあぐも歎かひそと諫。さか曾太  
郎。うち咳れて声を激し。かちらつとまれ。あまね赤根生。あつと似け。は。れ。も。親  
と。慕。も。女。じ。く。も。うち歎く。を。あ。ん。の。の。と。ん。ん。と。く。回。向。の。と。ま。向。の。香  
草。を。折。も。れ。は。ら。の。一。言。小。諫。られ。あ。く。取。を。改。め。て。佛。の。買。と。七。本。の。華。都。堅。小  
伏。々。阿。闍。灌。頂。衆。皆。ひ。ら。く。額。す。法。号。俗。名。唱。つ。往。生。得。脱。正。覺。位。授。樂。与  
樂。と。念。い。果。女。や。墓。所。を。立。出。す。更。小。寺。僧。小。別。を。告。後。者。亦。を。喚。聚。へ  
歩。ま。ま。去。り。轎。子。を。後。方。小。擡。し。う。ち。つ。れ。ら。ち。て。去。り。旅。宿。へ。歸。り。り。り。と。す。

詭偽の華送

赤根蟻松の黨の法會備るとさく志を遂おけれぬ。次の日衆皆大和へと  
久王太子が通陶五郎あり。既に続井殿の返書ありて。彼地を退出つ。  
私の後あらねば直ちに華洛へ赴けり。一忍軒のあき首途をちらなる  
下とす。名残の竭ぬ袂をうらち。後者を引俱しは。伏見街道を投て  
ひそがし。し。ら。の。に。話。り。ら。ふ。又。下。の。難。波。村。の。稍。盡。処。小。敗。鐵。古。衣。紙  
屑。あ。ん。ど。と。ぐ。穢。け。た。る。物。を。の。こ。買。り。賣。り。て。生。活。と。す。全。女。とい。ふ  
瘦。商。人。あり。け。し。ま。藻。汐。草。り。た。集。て。も。ち。足。ら。ぬ。親。子。ふ。ら。が。旦。夕。の。煙  
の。價。い。あ。が。ひ。も。あ。ん。の。母。の。病。苦。を。よ。の。ま。ひ。ら。小。看。病。つ。孝。行。庸。常。の。ら  
海。の。音。あ。づ。ま。ま。と。く。け。り。も。又。融。々。と。う。入。り。夕。陽。の。結。句。白。屋。は。持。衣。の  
の。暖。さ。も。小。春。日。和。と。鶯。の。細。く。鳴。く。門。の。寂。寥。か。し。浩。如。い。これ。も。又。あ。ん。の。世  
ろ。ろ。る。苦。し。さ。の。一。荷。小。あ。ま。る。古。道。具。を。肩。も。撓。げ。小。擔。ひ。ま。て。遠。小。徑。回。を。て  
え。入。ま。つ。全。女。宿。は。在。ら。り。た。物。買。買。た。小。直。が。ま。ま。と。と。門口。へ。重。擔。を。







わき。生道かがるま。吉丸裳脱の売とあられたま。あまの母の身は彼をつい  
て嘆息。神社佛閣。請との賽銭さうねりのあれた佛の偏を剥きと  
ずらん活業といひあがら。また物を利のあつた鹿索被て物をもせん後の世  
は。小ぢひかれ。さうも。う。に。物。体。有。南。無。阿。弥。陀。佛。と。念。ふ。れ。ば。四。五。六。町。と。打  
笑。ふ。阿。婆。の。涙。の。う。る。う。る。古。借。の。分。散。女。房。置。去。單。居。の。頓。死。頭。滅  
園。宅。の。敷。器。引。あ。ら。び。て。賣。り。の。損。買。り。の。得。出。新。入。船。の。時。の。估。向。を。不  
便。の。痛。い。の。と。あ。ら。同。屋。の。貨。物。が。減。ふ。と。く。真。敗。せ。ぬ。と。あ。か。る。ふ。さ。む。り  
の。凡。夫。の。私。意。あ。ら。び。活。業。を。れ。ば。と。く。病。者。の。枕。方。に。あ。る。佛。の。五。器。位。牌  
を。ん。ど。ん。忘。ら。ん。あ。ら。び。困。帳。い。ま。め。と。う。り。い。ま。せ。れ。ば。あ。ら。う。笑。え。い。い。心  
い。お。わ。け。つ。ら。ん。七。難。八。苦。も。救。せ。ぬ。仏。の。利。益。い。と。さ。う。い。況。て。聖。と。も。な。の。ま。ま。と。ね  
老。の。病。著。一。向。又。西。方。彌。陀。の。引。接。を。待。た。ぬ。の。こ。い。を。さ。ら。ぬ。病。の。苦。を。さ。る。  
あ。れ。苦。れ。い。負。債。の。呵。責。去。の。晦。日。を。い。ひ。う。め。て。い。ま。を。い。延。た。れ。ど。今。宵。は。長  
非。小。逃。走。が。い。の。ち。ま。ま。全。女。い。か。あ。の。あ。ま。金。借。り。小。あ。れ。と。れ。ど。何。処。も。か。る。霜  
枯。時。は。不。平。も。調。ね。秋。日。の。暮。々。小。帰。り。も。未。だ。合。員。の。病。の。御。仏。も。救。ふ。さ。う。あ。く  
ま。ら。せ。ば。ご。坊。賈。の。も。小。言。う。ま。れ。火。宅。の。恥。を。え。ぬ。あ。ら。ぬ。數。あ。ら。ぬ。身。を。世  
あ。り。身。は。歎。か。後。世。の。罪。を。や。ま。さ。ん。墓。を。物。を。と。り。と。と。と。憂。を。さ。せ。あ。く  
苦。い。ま。の。老。の。僻。言。を。あ。ら。び。い。て。よ。と。と。と。面。あ。ら。び。う。ら。は。口。説。い。ま。さ。う  
あ。ま。の。い。わ。ら。ぬ。常。言。の。小。膝。も。謔。合。今。宵。脱。ま。ぬ。負。債。と。同。じ。も。ま。れ  
たる。米。家。と。新。家。の。社。役。と。の。未。進。あ。ら。ん。それ。ら。あ。る。昔。傳。小。う。ら。ん。い。か。強  
い。い。あ。る。負。之。さ。う。一。得。ま。ら。あ。る。寄。を。引。う。り。て。臨。機。應。変。の。軍。界。あり。女  
から。あ。ひ。小。全。女。あ。ら。も。代。り。て。討。債。見。を。追。う。と。う。ま。あ。ら。せ。ん。あ。ん。身。の。物。の  
陰。小。解。れて。何。の。あ。ら。う。と。も。い。り。り。と。咳。ッ。た。あ。ら。ま。さ。ら。せ。て。便。り。と。あ。ら。り

同可後記卷一

二二

に説諭せどろろをもゆびを掉入の所帯をいふあちねどん身小餘  
 の財福ありと救あはすあつらじ正あはるをさるほど全々崇あらせむ  
 を吹疵を求るて何ういふは舞うべからん所あつらけけいごと  
 笑ひ文明うまれの人の只の頑小むね今世あひかじらん身の居て舞  
 是ま後ららもいふべからぬ吾侪が引うら小全女ありとてありせんや  
 どりてくや黄昏たりやぶ行燈を引あつら小棚の隅あつら燈はさつとひく  
 るく打つは蒸燗の硫黄小嚏くと嚏る鼻をうら掩ひ燗の点せともいと  
 暗れ燈を搔かすそ是あつら飾附細工の有流落成が緊要阿婆  
 此よあつらひひひひ必音まをいひそとてと後方より理あつら腰を抱え  
 起し障子の内へ潜り折しあつらと草金剛の鉄の音門口らうく  
 此れは渠いや未たりと四五六さる慌て門を鎖し却何があつら彼此をい

卓と共あつら鹿索の端いと長れ十字字林足と結び引捨る程も  
 ちらせんの戸を開くと三人破るむらむら敲ともをいと應て頓ま入れ  
 件の桶を正画小押居経机の片脚りさる煙盤上あ位牌銅磬香  
 炉花筒按排とばさる焦燥討債とも暮るや暮ぬよ門鎖とも今夜の  
 いろを眠るべし用ひやあつらと書ととも四五六騒ぐ気ともあつら  
 ちと辟らある二枚屏風を逆さる小桶のほとり立あつらひひり笑つら  
 後れ戸口をさらりと引あつら約や遅いと米家の杵あ一番衆と名まけ  
 挑燈揮りまき入る二番ハ薪屋の樵夫右馬二番又菽井啓菴物体  
 ほして引さる莊役の親平が襷積も消たる番袴の塵埃鞭つ殿が小  
 かのかく苦虫吟潰し踏が隔る敗床の野郎席蓐の中交る坊

主も臂を張て左より頭を廻し。金さのり。袖もさる。全ぬり出。迎  
 つい懐入る。影を隠し。とく。さへ。平人の物をさめて果の留  
 守をつら。大膽。是ま。物のつら。面。認。八丁寺町の敗鉄。の  
 和主苗字を預る。件。合点。七月九月と西節。豆板  
 一顆。茶代。毎日三貼の方劑。缺。別。煉。藥。人。参。進。送  
 ても。鞋。の。画。水。加。減。剪。常。の。如。五。貼。七。貼。の。風。茶。也。も。二。分。札。の。世。上。も。  
 況。歴。の。医。者。達。匙。を。投。大。病。人。を。け。の。ま。也。り。の。苗。め。誰。か。蔭。と  
 とい。の。世。の。人。を。や。ま。小。療。治。の。の。ら。白。銀。巻。物。乾。朝。言。二。疊。の  
 衣。関。置。あ。る。耐。斗。目。麻。上。下。の。使。者。を。受。ん。腰。の。床。搦。の。膿。た。も。潰。し。て  
 とも。換。投。せ。ん。長。袖。の。身。の。あ。れ。書。也。も。配。也。討。債。も。い。れ。ど。と。い  
 蔭。の。秋。も。あ。く。茶。の。效。也。生。延。た。る。命。が。今。更。惜。り。あ。い。活。也。ゆ。て。不  
 得。も。あ。れ。を。く。も。あ。ら。ぬ。命。あ。ら。り。り。の。吾。僧。が。本。事。人。参。を。吞。り。て。も。  
 首。溢。る。ま。及。ぬ。と。腰。の。ら。隨。人。躰。を。膝。から。崩。片。胡。坐。理。屈。あ。ら。て。揉。小。味。る。  
 按摩。あ。ら。の。鄙。俗。たり。療。治。ら。ひ。の。口。舌。も。痛。く。あ。れ。腹。探。も。四。五。六。之。笑。ひ。を  
 忍。び。飽。す。を。い。て。政。を。搔。け。宣。の。所。も。有。理。推。量。の。と。く。全。ぬ。の。宿。あ。ら。ど。  
 さ。老。母。の。い。れ。も。果。と。杵。及。熊。脊。右。角。つ。丸。右。り。帳。面。披。眼。を。睜。こ。や。留  
 守。小。居。の。敗。鐵。の。古。物。買。か。活。業。也。も。擇。も。好。ま。全。ぬ。か。古。借。残。の。買。れ。也。也。  
 さ。とも。喧。嘩。を。買。んと。あ。ら。ん。身。あり。と。免。か。じ。られ。あ。ら。の。春。より  
 進。送。た。る。飯。米。の。藪。の。方。劑。も。や。親。と。ま。露。命。を。終。糸。の。膳。の。細。さ。ら  
 び。中。ら。朝。夕。の。烟。を。立。う。た。る。薪。の。恩。德。一。百。何。十。何。更。の。涙。り。う。さ。の。慈。悲。を  
 仇。悔。目。の。あ。ら。ん。と。い。の。外。の。い。延。され。の。月。も。も。六。日。た。る。全。ぬ。を。出。  
 ぬ。の。と。い。取。ら。ぬ。ま。ね。と。晝。く。間。親。平。の。膝。を。り。容。り。袴。の。袴。を。つ。ま。も

主も臂を張て左より頭を廻し。金さのり。袖もさる。全ぬり出。迎  
 つい懐入る。影を隠し。とく。さへ。平人の物をさめて果の留  
 守をつら。大膽。是ま。物のつら。面。認。八丁寺町の敗鉄。の  
 和主苗字を預る。件。合点。七月九月と西節。豆板  
 一顆。茶代。毎日三貼の方劑。缺。別。煉。藥。人。参。進。送  
 ても。鞋。の。画。水。加。減。剪。常。の。如。五。貼。七。貼。の。風。茶。也。も。二。分。札。の。世。上。も。  
 況。歴。の。医。者。達。匙。を。投。大。病。人。を。け。の。ま。也。り。の。苗。め。誰。か。蔭。と  
 とい。の。世。の。人。を。や。ま。小。療。治。の。の。ら。白。銀。巻。物。乾。朝。言。二。疊。の  
 衣。関。置。あ。る。耐。斗。目。麻。上。下。の。使。者。を。受。ん。腰。の。床。搦。の。膿。た。も。潰。し。て  
 とも。換。投。せ。ん。長。袖。の。身。の。あ。れ。書。也。も。配。也。討。債。も。い。れ。ど。と。い  
 蔭。の。秋。も。あ。く。茶。の。效。也。生。延。た。る。命。が。今。更。惜。り。あ。い。活。也。ゆ。て。不  
 得。も。あ。れ。を。く。も。あ。ら。ぬ。命。あ。ら。り。り。の。吾。僧。が。本。事。人。参。を。吞。り。て。も。  
 首。溢。る。ま。及。ぬ。と。腰。の。ら。隨。人。躰。を。膝。から。崩。片。胡。坐。理。屈。あ。ら。て。揉。小。味。る。  
 按摩。あ。ら。の。鄙。俗。たり。療。治。ら。ひ。の。口。舌。も。痛。く。あ。れ。腹。探。も。四。五。六。之。笑。ひ。を  
 忍。び。飽。す。を。い。て。政。を。搔。け。宣。の。所。も。有。理。推。量。の。と。く。全。ぬ。の。宿。あ。ら。ど。  
 さ。老。母。の。い。れ。も。果。と。杵。及。熊。脊。右。角。つ。丸。右。り。帳。面。披。眼。を。睜。こ。や。留  
 守。小。居。の。敗。鐵。の。古。物。買。か。活。業。也。も。擇。も。好。ま。全。ぬ。か。古。借。残。の。買。れ。也。也。  
 さ。とも。喧。嘩。を。買。んと。あ。ら。ん。身。あり。と。免。か。じ。られ。あ。ら。の。春。より  
 進。送。た。る。飯。米。の。藪。の。方。劑。も。や。親。と。ま。露。命。を。終。糸。の。膳。の。細。さ。ら  
 び。中。ら。朝。夕。の。烟。を。立。う。た。る。薪。の。恩。德。一。百。何。十。何。更。の。涙。り。う。さ。の。慈。悲。を  
 仇。悔。目。の。あ。ら。ん。と。い。の。外。の。い。延。され。の。月。も。も。六。日。た。る。全。ぬ。を。出。  
 ぬ。の。と。い。取。ら。ぬ。ま。ね。と。晝。く。間。親。平。の。膝。を。り。容。り。袴。の。袴。を。つ。ま。も



全  
五  
六  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

四  
五  
六

百  
八  
十  
九  
八  
七  
六  
五  
四  
三  
二  
一

十  
九  
八  
七  
六  
五  
四  
三  
二  
一

出づらち。嗟れ。左右方とも小静とあり。所道。死至極久。馴染の全々  
 親子。莊後。かひよ。素負。埒あり。進らむべし。と。ひまほく。い。か。も。冬。出。か。も  
 かな。十月。あまる。房。残。の。未。進。積。ま。す。ひ。と。あり。母。の。可。愛。と。あり。ま。も  
 吾。倚。くら。取。る。残。あり。と。い。く。あ。つ。も。あ。れ。宿。長。食。裁。ハ。益。あ。ら。ん。や。と。あ。る  
 所。全。双。ハ。苦。れ。ま。く。小。母。を。負。す。逐。電。で。小。疑。ひ。す。あ。れ。も。吾。們。が。追。留。ん  
 り。と。怖。言。す。これ。あ。る。を。と。こ。を。残。し。置。時。を。殺。す。と。ま。る。を。遠。く。い。り。り。誘  
 へ。ま。追。逐。て。引。戻。さん。い。つ。も。や。り。つ。も。と。小。膝。を。敲。く。左。右。を。信。と。え。ん。れ。ば。公。給  
 たり。と。應。も。あ。む。愛。皆。一。香。挑。燈。を。引。提。す。立。あ。げ。ば。ま。ち。約。め。と。四。五。六。が  
 慌。忙。に。禁。さ。も。競。ひ。あ。は。に。癖。あ。れ。ば。ほ。ろ。揮。拂。の。彼。首。此。首。ま。り。著。衣  
 ぬ。り。も。ま。ぐ。衝。倒。され。く。忽。沈。破。と。輾。轉。皆。小。倒。る。屏。風。の。裡。小。堂。を  
 早。相。の。魂。魄。ら。小。あ。ら。價。地。獄。の。制。度。も。金。も。あ。る。敬。を。と。れ。ぬ。討。債

等。の。と。い。と。果。ま。り。と。う。落。と。挑。燈。と。い。ろ。と。も。小。忽。沈。破。の。子。我。ら。小  
 的。に。射。外。す。祖。母。を。入。ま。り。居。る。ら。べ。の。四。五。六。を。鼻。う。ら。り。各。位。是。と。見。ん  
 ぬ。わ。あ。の。れ。活。業。の。め。ど。り。道。全。々。許。未。ま。り。ん。ま。老。母。の。臨。終。痛。く。あ。る  
 時。ま。り。と。う。ら。り。も。あ。ら。ん。女。の。あ。ひ。も。あ。れ。ば。全。々。を。諫。め。激。し。後。の。り  
 多。く。あ。め。ら。小。擲。を。買。入。べ。ん。錢。あ。り。と。う。ら。歎。く。人。の。子。の。お。胸。の。さ。み。み  
 樽。内。の。物。も。あ。れ。散。を。と。ま。り。今。宵。の。葬。送。を。告。す。う。ら。ん。と。ま。り。全。々。の  
 香。花。院。に。ま。わ。り。し。う。留。守。は。居。る。身。の。氣。味。と。る。と。嚮。は。障。子。の。さ。ら。り。と。  
 鳴。つ。る。も。ひ。ひ。と。い。が。要。皆。目。を。注。し。と。れ。も。あ。ら。り。行。燈。の。ほ。ろ。り。ら。り  
 集。合。し。て。ま。り。あ。く。傍。痛。き。あ。ら。の。母。の。忍。び。あ。り。と。這。出。ん。と。あ。り。と。り。と。り  
 四。五。六。を。も。も。ん。と。う。と。う。嗟。天。出。あ。ら。る。出。あ。ら。る。と。い。が。要。皆。と。う。を。さ。り。と。り  
 敗。鐵。と。の。出。る。と。り。何。れ。の。が。何。れ。と。と。出。る。中。と。向。つ。共。は。武。者。が。ひ。と。肩。と。肩

とさどらうのう。どひうひて平親平の行燈の火を掻くれば四五六も小藤をよを  
さればおまこりひつら宛鬼のふどあ。あのかの惑ひもや。桶の内をめぐり  
と物の響のあたるこり宛鬼小出らまらへんともあれ其さうする辛い  
めさるん跡叮嚀小吊べたよ出てあらためえせあめと奥へあらざる  
謎小ひららむれば今更ふあつたの母の出りていふかひあうらぐとも知れぬ  
討債鬼ホを項下寒くあぬ歯を齧ちめて阿彌陀仏彌陀仏と  
且く念ぶ息歎吻現墓あたへ人の命長病さひひあからまのひか  
あらざり餘病や發せり。危病まき。さうや詰りと信守小。さうの勢ひ引  
あつ。同懸る世間の人のさう小鬼ぞあた四五六もさうとをと笑顔あつて  
うち点頭いつか如く項下の薄紙を剥くさう。顔の色もゆるなほせし小  
すびきの小柄ぬり。さうの後へ貸ぬと。ちがうく二三軒ありぬひ茶の中  
荒の羹の澤山のり。全女親子のその飯を食ふと忽ち食傷し。伸つ  
又つ苦うう辛ううさう愈えさう。されど彼飯粒が老母の齧の虚小入る。  
とやくせらる程出がし薪の鹿牙を養齒ゆき。あねおさんとあうりじら。  
銀忽地腫あがりて疼痛と甚し。口漱んとく椽頬へやうや小這ひおれが。  
底裏の様落る。脊をむきまきと叫び息絶あんとさる程全女膝を啓  
蒼老の加減の湯茶を只一口飲いたれば直さる。往生察する所飯小中られ  
薪の鹿牙は銀を破られ親平のほろりう小。さう音情の茶ことと詩く  
末進をば責めあへど雨の漏らみあらぬ良う。底裏を腐して様を落して  
脊骨を移す。一教井氏の湯茶まき。終よとめをさうきたれば。件の四人の  
こゝ母の誓敵こころ全女が恨の涙ありともよ。さうつたる物語り。いと理  
とらへる。彼もそれゆ定業あらん小。さうねく人を恨め。さうめく小寛賺して



香花院(支店)なり。金銭の原涌物人の命を換がじ人殺しの罪をゆて。  
あめく獄屋に移さるべ。何の身をりて全奴が負債を債あるる苦じと  
威されて。さるりとも小頭を搔れせ小食毒とらふれど飯小中しと  
ひのりをすく新の鹿牙をく銀を腫れ榎小背を移せり新家と屋  
主の罪まわらば。詮ざる所啓菴老の方とらひ小りやあらんとしりてあめく  
眼を睜る。あくそれの僻言と米小前の糞を交す。蚌目を偷む。米菴の罪  
悪木を薪す。銀を腫れたる薪屋の罪様の朽るを造るべ人又傷たる  
。屋主の越度ともいふ。あふ小彼信終小長く苦悩をさるべく。忽必息を  
引とらる。それか匙は妙ある所医師はなえて畏る。りてそれの僻言と  
疑ひの二人あり。医師の絶くちるあふ。いりてとと置く。角くむ  
芦の水く論果の打ひ。廻の四人が中(四五六)諸肩祖と推隔とらるる。

何れぞ證據もあはる。平あ。何士警をさるべとらける疑かひとせん。  
自餘人のまれあ。まれ。莊役とのまれと似は。些の事よ恥ある。ひ懲  
されく。額を折りつるま。一ものあり。さてもあくとも全奴は疑とらる。面この身  
小ありあ。禍あるふ。いれを是と定んや。益あり。同士警とらる。あ。恨を  
あきひたり。所詮あめく。私睦く。誠を盡さる。全奴のいつて憎くとあめく。  
所存のう。親平が扇を扇よとらる。は。さるる。か。に。説。示。せ。び。二。人。ひ。と  
く。うち。点。頭。莊。役。と。の。宣。ひ。と。と。あ。り。さ。る。全。奴。を。寛。る。と。て。肝。要  
あらめ。さる。今。更。と。ぶ。あ。あ。く。ま。損。と。る。を。り。あ。れ。は。是。ま。む。の。貫。を  
な。れ。物。す。く。盤。帳。を。さ。ら。と。消。し。主人が寺より帰らぬ。さ。た。は。柳。を  
打。り。く。送。り。も。う。備。工。買。さ。ぬ。當。坐。の。合。力。これ。よ。ま。く。善。根。の。ら。じ。これ。は  
い。う。ち。の。べ。た。と。い。ひ。四。五。六。小。藤。を。拍。り。く。も。と。ら。ひ。あ。め。の。り。ま。主人が





